

# WOS 専用品種 ビビットグリーンの使用事例 ＝宮崎市営球場＝

雪印種苗(株) 南九州営業所

池邨 信彦



## 1 はじめに

普段、私たちが公園などで何気なく目にし、心を和ませてくれている“芝生”に関する研究は、ゴルフ場、試験場や大学の研究機関などで研究が進められてきています。しかし、これまで私たち日本人の心中には、「芝生」に対する意識はスポーツや文化の違いから欧米の人たちと比べると、決して高くなかったように思えます。そんな中、今から6年前（1993年）のプロサッカーリーグ「Jリーグ」の開幕に伴ない、芝生に対する考え方が大きく変化しました。特にJリーグは「公式戦は天然芝でエバーグリーン（常緑化）であること」を義務付けたことによって、冬でも緑色した芝生の上でプレーする姿がマスメディアを通し、スポーツターフとしての“芝生”が、多くの人々の目に触れるようになりました。

その後、日本における近年の芝草の品種改良や、スポーツターフに関する技術は急速に発展し、現在ではサッカー場のみでなく、野球場や陸上競技場等でもエバーグリーンが広がっています。

## 2 キャンプ地宮崎

南九州営業所が所在する宮崎県は、九州の南東部に位置しています。太平洋に面しているため暖

流で黒潮の影響を受け、年間の平均気温は16.9°Cと温暖な気候がもたらされています（表1）。そのため、南国のリゾート地として県を上げてPRに取り組まれており、今年の3月末から約2か月間「グリーン博みやざき'99」が行われました。そして来年7月には九州・沖縄サミット（主要国首脳会議）の閣僚会議が開催される事になっております。また、宮崎県のこの温暖な気候を利用して、毎年秋から翌春3月頃までJリーグチームをはじめ、プロ野球各団、実業団、大学や時にはオリンピックチームなど、国内外の様々なスポーツ関係チームがキャンプ地として訪れています。

ここでは、昨年秋に『ビビットグリーン』を使用し、ウィンターオーバーシード（以下WOS）を実施された宮崎市営球場の事例を紹介致します。

## 3 導入

宮崎市営球場は、中堅122m、両翼92mの広さで外野に天然芝を持つ野球場で、近年はプロ野球読売巨人軍が、秋季と春季のキャンプ地として利用されている施設として有名になっています。一昨年まではWOSを行っていませんでしたが、①ベース芝の保護、②施設を利用するプレイヤーの保護、③冬期から春先の景観美の向上等を目的に、昨年秋からWOSを導入されました。今回のWOSに使用して頂きましたペレニアルライグラス・ビビットグリーンは市販されているWOS専用品種の中では耐暑性が弱く、暖地型芝への移行（トランジッション）が良好な品種として、各方面から好評を得ており、平成10年秋に宮崎市営球場で採用頂ける事になりました。

表1 月別平均気温及び降水量（宮崎市）

|            | 9     | 10    | 11    | 12   | 1    | 2    | 3     | 4     | 5     | 6月    |
|------------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| 月平均（°C）    | 24.1  | 18.9  | 13.8  | 8.7  | 6.8  | 8.0  | 11.1  | 16.0  | 19.6  | 22.8  |
| 月最高平均（°C）  | 28.4  | 24.0  | 19.4  | 14.7 | 12.5 | 13.3 | 16.2  | 20.7  | 24.0  | 26.7  |
| 月最低平均（°C）  | 20.5  | 14.3  | 8.8   | 3.5  | 1.8  | 3.1  | 6.1   | 11.4  | 15.3  | 19.4  |
| 月降水量（mm）   | 297.0 | 411.5 | 43.0  | 6.5  | 40.5 | 61.0 | 271.5 | 200.0 | 225.5 | 364.5 |
| 年平均降水量（mm） | 328.5 | 194.2 | 101.2 | 42.4 | 62.6 | 82.6 | 156.5 | 220.6 | 278.9 | 376.9 |

※気温及び年平均降水量は1960～1990年の統計（宮崎県気象月報）

※降水量は1998.9～99.6



写真1 播種前の野球場



写真3 播種後1か月



写真2 播種後5日目



写真4 播種後1か月

#### 4 作業内容

播種前の作業として施肥は、播種の1か月前に終了し、ティフトンの生育を停滞させ、低刈処理をされています。

播種は、ビビットグリーン単播で50g/m<sup>2</sup>を平成10年9月23日に行われ、散水は発芽するまで毎日実施、播種後8日目に全体に発芽が確認されました。その後(10~12月)は、週2回のペースで行われました。刈り高は20mmに設定され、刈込みは月6回の間隔で行われ、施肥は12月末までに粒肥にて3回、液肥は1回与えられています。

#### 5 生育状況

平成10年9月12日 播種前の風景(写真1)。

平成10年9月28日 播種後5日目(写真2)。

24~26日にかけて大雨が降り(59mm:9/26)種子が多少流失にあった。

平成10年10月27日 播種後約1か月(写真3, 4)。

平年より気温が2°C高く、降水量も多めであったため、ベース芝がまだ生育停滞していない様であった。南九州でライグラスに多発していた「いもち病」が心配されたが、影響はなかった様である。

平成10年12月22日 相変わらず平年より気温が高く、無降水が続き、散水が行われた(写真5)。

平成11年1月18日 生育順調。キャンプ開始を間に控えビビットグリーンの淡い色やきめ細やかさが浮き上がり大変奇麗である(写真6, 7, 8)。

平成11年2月13日 キャンプ実施中。作業は、練習時間を外し、早朝、夜に行われ最高のコンディションが用意されている(写真9)。



写真5 降雨不足により散水（播種後3か月）



写真8 野球場



写真6 キャンプ直前



写真9 芝生の上でくつろぐ選手



写真7 完成したビビットグリーン芝生

## 6 おわりに

宮崎県は昨年に引き続き、芝生管理者を悩ます天候でした。「播種直後の大雨、高温干ばつなどで2月のキャンプに芝生の状態をピークに持っていく事に大変苦労した」と伺いました。その様な環

境のもと『ビビットグリーン』の特徴を十分に引き出させていただいたと思います。昨年秋にWOSを行った事によって、冬場でも緑色した天然芝が生えるため、クッション性が飛躍的に向上したと聞いています。当時、左ひざに爆弾を抱えていた松井選手にも良い影響があった事だと思います。また、選手たちを見に来るファンの方々の目にも、冬場でも緑色した芝生の上での練習風景は、一味違って見えた事ではないでしょうか。

2002年には日韓共催のサッカーW杯が行われ、大会直前にはキャンプを行うため、日本各地に世界の代表チームが訪れる事だと思います。これを機に“芝生文化”がまた一つ広がっていけば、身近な運動広場にもWOSが広まっていくのではないかと思います。

今回の取材に当たり、お世話になりました総合運動公園のフェニックスグリーン関係者の皆様に、感謝申し上げます。